



乳幼児の発達相談 No.201

ことばとコミュニケーションの発達について

発達相談スタッフ 千野 千鶴子



乳幼児の発達相談では、年に3回、相談の後の時間に勉強会をしています。3月は「ことばとコミュニケーションの発達について」。藤井榮子先生に講師をしていただきました

コミュニケーション能力を育てる

コミュニケーションとは、気持ちを通じ合うことです。ダウン症のある人は、ことばが出なくてもコミュニケーション能力の高い人が多いのですが、乳幼児期にお母さん（お父さん）と楽しい時間を過ごす中で、コミュニケーション能力は培われます。

まず、コミュニケーションを深めるために日常生活の中に取り入れていただきたいことをご紹介します。お子さんと一緒に大いに楽しんでいただきたいと思います。

「**絵本を読む**」時間をつくりましょう。ダウン症のある人は、視覚的な情報を得るのが得意です。お気に入りの絵本を作ってあげてください。読み手の表現力（感情を込めたり、節をつけたり、ジェスチャーをつけたり）に応じてオリジナルの物語が出来上がります。寝る前の絵本タイムもいいですが、絵本を読んでもらっているお子さんの表情を見るのも大事なので、向かい合って読んでみましょう。

「**ままごと遊び**」も一緒に楽しんでほしい遊びです。生活の中のイメージが広がり、確かなものになります。男の子ともぜひやってください。「将来、料理のできる男にしよう！」と思い、ままごと遊びをしているというお母さんもいらっしゃいます。

また、お子さんの身の回りの物や人を写真に撮り、クリアケースに入れるなどして、「オリジナルのカード」に仕立てます。それを使ってコミュニケーションをとると、分かりやすく、楽しめますし、内容が広がります。

次に、コミュニケーションを楽にすることばをご紹介します。

「もういっかい」「いや(Yes or Noのサイン)」は、お子さんが音として出せなくても、ジェスチャー等で表現できるといいことばです。

お母さんを楽しめることばとしては、「終わり」「おしまい」があります。楽しいことはなかなか終わりにしたくないのが子どもです。

なかなか「終わり」にならない場合は、数を数えます。「1、2、3、4、～10」。「10(じゅう)」で終わり。10まで数えることで「終わり」が理解できるようになります。たとえば、長めの時間待っていてほしい場合は、ゆっくり数え、早く済ませたいときには、早く数えます。速度を変えるといろいろな場合に使えます。

音を出す

ことばは、音を真似することから始まりません。たとえば、デザートによく食べる「いちご」を、お子さんに「いちご、食べようね」「いちご、おいしいね」などと言いながらあげていると、「いちご」がどういうものを理解していきます。「いちご」の3文字の音を全部真似できなくても、「ご」という音を真似できるようになります。そして、お子さんが「い

ちご」を「ご」と言ったとき、「いちごね」と、お母さんがことばとして受け止め、返していくと、次のことばを出そうという意欲につながっていきます。

タイミングよく音を出させることも、ことばにつながります。「いないいないばあ」遊びの「ばあ」は、出やすい音。この遊びはいろいろなパターンで遊べます。カラオケのマイクを持っていて、偶然音を出したときに思いがけず響いたりすると、次からはマイクに向かって必ず音を出すようになります。

ラッパを吹くことも、音を出すことにつながります。少ない息でも音が出るようなラッパを選んであげてください（注：右上の囲みを参照）。また、音の出る絵本も楽しめます。

ことばの“素”をつくる

さまざまな楽しい実体験を重ねることは、豊かなことばの素をつくります。たとえば、新聞紙に触れさせます。破く、ちぎるという手先を使う遊びもできます。一緒に持って引っ張って割いたり、破いたり、細かくちぎって高いところから雪のように降らせてみたりしましょう。細長く切って一枚ずつ落としてみたり、床の上に落ちたものを集めまとめてボールにしたり、水の中に入れてぐちゃぐちゃしたり。工夫次第でかなり長い時間、楽しめます。最後は、一緒にお掃除をして、ゴミ箱に捨てて、おしまい。

いつも食べている食材にも触れさせてみましょう。丸のままの大根、皮の付いたトウモロコシなどの野菜にさわらせたり、皮をむいた状態で食べているバナナやリンゴを丸のままさわらせ、目の前で皮をむいてみせたりしましょう。お風呂場に氷を持って行って徐々に形を変えていく氷を体感させるというように、玩具で遊ぶだけでなく、身近にあるもの

吹きやすい笛

乳幼児の発達相談では、和音笛（スズキ製和音笛「アコード」）をお勧めしています。ひと吹きで和音が吹けます。青（ド・ミ・ソ）、黄（ド・ファ・ラ）、赤（シ・レ・ソ）の3個セットで1,575円です。ご希望の方は、インターネットでお買い求めください。に触れ、体験することもやってみましょう。

ことばかけ

子どもの「ことば」は、「ことばかけ」をたくさんすると伸びるのでしょうか。

実は、たくさんのことばかけは、効果的ではありません。一度にたくさんのことばをかけると、子どもは何を言われたのか理解できず、混乱してしまいます。なるべく短く、分かりやすいことばを使い、ジェスチャーや表情も交えながら、ゆったりと話しかけると理解しやすいのです。

また、お子さんが今していること、感じていることを、ことばにして返してあげると、そのことばの意味を理解するようになります。

そして、質問するのではなく、提案するようなことばを使うことを心がけてください。たとえば、外遊びに連れていこうかなという場合は、「どこへ行く？」ではなく、「公園に行こうね」という言い方をしましょう。「どこへ行く？」のように質問された場合には、プレッシャーがかかってしまいますが、「行こうね」と言われると提案になり、お子さんの気持ちの中にすんなり入っていきます。

ちなみに、6歳児の視界は90度だそうです。お子さんに声をかけるときには、視線を合わせるようにしないと、自分に向かっての声かけとは理解できないと思ってください。

忙しい毎日だと思いますが、お子さんと一緒にゆったりと楽しく遊ぶ時間をつくりましょう。それが、ことばの素になります。